

# 保健師 最前線

## 地域に出向く

## 大切さを痛感

久御山町

かみむら ひろみ  
上村 弘美さん



こんな人なら相談しやすいだろうな、と思  
った。気さくで明るい。そしてよく笑う。

「介護だけでなく健康、福祉、医療など高  
齢者やその家族の方のさまざまな悩みや相  
談に乗る『なんでも相談所』といったところ  
でしょうか」。この4月、住民福祉課福祉介  
護係長に異動となり町社協に出向、町地域包  
括支援センターの副センター長を務める。

互いに専門分野を持った主任ケアマネジ  
ヤー、社会福祉士らと連携を取りながら高齢  
者をサポートする。保健師としての主な業務  
は要支援1・2と認定された人の介護予防の  
ためのケアプラン作りだ。「できる限り自立  
した生活をしたいとの思いから、介護予防サ  
ービスを申請される方が増えてきました」と  
話す。

一方、高齢化とともに老老介護や認知症の  
相談も増えてきたともいう。「でも社会全体  
で介護を支える介護保険制度がスタートし  
たおかげで、介護のイメージが昔とは随分と  
変わりました」と話す。

地域で働いているケアマネジャーらが日  
常業務をしやすいように、サービス事業所や  
医療機関をはじめ保健所、自治会、民生委員  
などのネットワーク作りも大きな仕事だ。  
「そうなんです！ 包括の仕事は地域で地

域を守るため、地域の各関係機関との連携と  
調整が何よりも欠かせないんです」。珍しく  
声のトーンが上がった。

母子、成人保健、国保の保健事業、さらに  
はデータヘルス計画作りと、保健師として幅  
広い分野に携わってきた。「これまではどこ  
らかという住民の方に（町役場などに）来  
ていただいていた。しかし包括は地域に出向  
かなければ仕事ができません。いまさらです  
が保健師は地域に出向くことが基本だと  
痛感しました。顔の見える関係づくりができ  
て初めて、地域の課題や背景が見えてくる感  
じがします」。説得力ある言葉だった。

今春、京都市町村保健師協議会の会長に  
選ばれた。保健師の分散配置や世代交代など  
の課題が指摘されている。「分散配置の中  
の仕事でも保健師としてやること、やるべ  
きことはあると思っています。何事にも楽し  
く前向きに取り組んでいきたい。みんなに元  
気になってもらえる会にしたいですね」。重  
責を感じていると話すが言葉に力みがない。  
期待しています。

「趣味は20年前から続けている茶道です。  
健康法ですか、ご覧のとおりよくしゃべり、  
よく食べることです」。そう言ってまた笑っ  
た。